



(→賑わいのある熱海駅前)

トップダウンで行財政改革を推進 熱海市 齊藤栄市長から学ぶ

総務民生常任委員会の行政視察で、熱海市の行財政改革と観光客のV字回復の取り組みを視察しました。

10年間で41億円の赤字解消

齊藤栄市長が平成18年9月就任当時に公営企業会計に約41億円の赤字（夕張市に次いで全国の番目）があったが、市民や職員も知りそれでいなかった。

12月に「財政危機宣言」（翌年からは議会の要請により「財政再建スタート宣言」と改名）を行った後、「行財政改革プラン」を策定し5年間で財政再建に取り組んだ。入りを増やして出を抑えるの

ことが大事であるが、熱海市は別荘所有税を徴収していることから収入を増やすのは難しく、出を抑える「コストカッター」しかない。嫌われるところであったといい。

具体的な方策

①大型公共事業の凍結 新市

②事務事業（360）を聖域

なく見直し

③職員給与削減

④公共料金の値上げ 上下水道、「MII処理の有料化

上記の行財政改革プランをトップダウンで確実に実行する」

「空飛ぶクレマ」で離島の災害対策を

去る1月30日みえ「空飛ぶクルマ」ドローンの移動革命実現に向けた公開実証実験が鳥羽市マリンターミナルで行われました。

一郎三重県副知事は「空飛ぶ車で地域の生活の利便性の向上を果たしたい」とあいさつ。

大型客船で鳥羽に来た観光客が、空飛ぶ車で離島を

いなかつた。

熱海の宿泊客のV字回復

10月29日市議会議員と商工会議所女性部で行われた「TOBAミライourke」で「鳥羽のまちをじつじつ」というたくさん意見が出されました。その中の△班の主

意見を報告します。

◎観光客が年間400万人来ているのはあたらしいこと。

か。20年先に鳥羽市の人口が一万を切る。これ以上減らさないために何をするか。若い労働力を増やす。

・鳥羽駅周辺の整備

・宿泊した観光客が夜歩けるようにして欲しい。鳥羽駅周辺、駐車場をもっと利用する方法は無いのか。

・マルシェのど真んに子どもが遊べる公園が欲しい。

・老朽化した建物（ビル）を建て替えるか。

・佐田浜駐車場の料金が高過ぎる。駐車場不足。

・JR側の方から街中へ行ってもあるにも寂しい感じ。

・夜のタクシーがないので困っています。

◎鳥羽の宝が何かを見つける。オンライン、ナンバープレートを見つかる。

・たくさんのものがあるのに、発信力がない。海女文化をもっと活かす。自然、海を活かして食や健康をフックにした方が良い。

・お金をかけずにおもてなしをできる「あいわい運動」をしたらよい。

市長のビジョンがわからない。かうない。

10年後、20年後の鳥羽のまちづくり計画が必要。

が自然・景観・食・文化・ひと・の中から何があるのかを見いだし、鳥羽のオンライン、ナンバープレートを市民が共通の認識を持ち、磨きをかけられることが重要だと思った。

「働きたくない観光地」づくり

「観光は投資をし続けるのが宿命である。行政と事業者の役割があるが、行政が観光でやるべきことはインフラ整備とプロモーションをやること。これからはバラエティー。

行政が観光業者と一緒につながり、つながりでできることが考えられる」といった意見を述べた。

大変なことだと思いますが、これが重要なことです。

◎鳥羽駅周辺の整備

・宿泊した観光客が夜歩けるようにして欲しい。鳥羽駅周辺、駐車場をもっと利用する方法は無いのか。

・若い労働力を増やす。

・離島の魅力をもっと出す。

・パールロードの景色。

・行政のやっている情報が市民に伝わっていない。

・市とのビジョンが明確になれば、市民もつながりで情報を発信できる。自分たちでできることが見えてくる。

・人口減を防ぐための方策を示して欲しい。

・市長のビジョンがわからぬ。

かうない。

市長のビジョンがわからぬ。

かうない。

市長のビジョンがわからぬ。